

早稲田大学インクルーシブ教育学会 ニューズレター

2021年（令和3年度）NO.4

実践研究報告会

私学部会



「コロナ禍の学校生活を通じた本学園のアセスメントと支援の検討についての実践」

世田谷学園中学校・高等学校 朝倉 努 氏

保健室の利用状況が、例年と大きく異なるなど、コロナ禍が生徒の心と体へ与える影響が少なくないことが推察された。そこで生徒指導部が主導して、アセスメントと、支援が必要な生徒への支援を学校組織として行った。

「心と体のチェックシート」を中高全学年で行ったところ、高校第3学年が気になる学年として浮上した。テキストマイニングによると、「ウイルス」、「苛立つ」という言葉が目立ったため、生徒指導部が保護者対象（希望者）の講演会を企画・実施した。進路指導部による学年生徒に対する指導と併せて、全員に対する1次支援を推進した。

そして、中学1年生に対して再度同様のアセスメントを行ったところ、クラスによる違いが見られた。特に、身体症状の不調に注目して要支援の生徒をピックアップし、その結果を担任・学年主任と共有し、面談などの実施を検討してもらった。

アセスメントを、1次支援、2次支援・3次支援につなげることによって、3段階支援を、学校組織として包括的に行うことができた。今後、教職員の様々なバックグラウンドを活かした体制づくりを推進していきたい。（文責：一ノ瀬）

授業部会



「引き取り訓練」 ～全校児童（生徒）に向けた防災の日の防災教育～

都内私立小学校 濱 紗弥子 氏

授業部会で学んだことをフルに活用した実践発表であった。「パワポ」教材（荒川先生に教えていただきました）を使った防災教育の説明はMI（マルチプルインテリジェンス）を活用し、どの児童にもわかりやすいように工夫されていた。また、発表で参観者は、児童と同じように防災教育を体験したが、視覚的な支援、音声的な支援、最後にはクイズも含まれ、児童が怖がることなく、最後まで楽しく学べるしかけがたくさんあった。実際に防災施設を活用したり、専門家のお話を聞いたりする機会も盛り込まれ、教科横断型の防災学習であり、児童は継続的に学習することができていた。これは、自身が被災経験のある先生が、子供達への危機管理のために作られたプログラムであり、子供達の感想からも、学んだ内容をしっかり理解している様子を伺うことができた。何よりも「教科横断型」の実践であることが、これからの学習の継続に重要であることを学ぶことができた実践であった。（文責：江濱）



学生部会

「Scratch を用いた書字に困難を示す児童への漢字指導」

早稲田大学教育学研究科2年 遠藤 秀聖 氏

対象児は書字の困難さから自己肯定感や学習意欲が下がっていた。KABC-IIや面接からのアセスメントを基に、熟語当てゲームや漢字パーツ分けを意識した教材を作成したが、期待している学習意欲の向上にはつながっていなかった。そこで、MI チェックリストを用いた結果、「博物的知能」「視覚・空間的知能」「対人的知能」の知能が高いことがわかったため、Scratch というプログラミングを用いた教材を作成し、ゲーム感覚で漢字を学習できるようにした。

Scratch を導入した結果、家庭教師以外の時間にも漢字学習を主体的に行う学習意欲の向上が見られたり、漢字や熟語を提示したとき自分の知識と結び付けて考えたりする場面が増加した。学習意欲の向上には、Scratch の漢字ゲームがシューティング要素を取り入れており、それが対象児の得意な同時処理や、視覚処理につながり、言語力を活かすことができた。また、対人的知能を活かすために Scratch を通して対象児と対話する機会を増やし学習に取り入れたり、元々持っていた言語力や結晶性知能を活性化したりすることができた。

子ども達が自分らしく楽しく学ぶことができる教材や環境が今後はもっと必要になってくる。 (文責:平田)

ご参加の皆様からのアンケート(一部抜粋)

- ・それぞれの実践を聞かせていただき、大きな刺激を受けました。チームとしての学校の在り方やアセスメントを活かすことの意義、MI を活かした幅広い学年への一斉指導、個別に支援が必要な場合のニーズに応じた支援の在り方等、様々な視点から日々の取り組みを見直す貴重な機会となりました。ありがとうございました。
- ・児童生徒の実態に即した様々な取組について学ぶことができました。多様な個人の集合体である学校においては、多様なアプローチの方法を常に考え、より児童生徒に適した関わりを模索していく必要があると再認識しました。組織としても個人としても柔軟でいるためにも自分自身が学び続けていきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・私たち教員は毎日実践を積み重ねています。上手くいくこともあればそうでないこともあるわけですが、それがどうしてなのかを振り返るゆとりはありません。「まとめる」ことは負担感が大きいことでなかなかできないことですが、大切なことなのだと再確認させていただきました。
- ・それぞれが、事例を用いて説明されたので、わかりやすかったです。最後に、本田先生のまとめがあり、「教室の中の子ども」「MIを取り入れて」など目から鱗の状態を受けていました。ありがとうございました。



第5回の研修は、福岡教育大学教授 西山久子先生をお招きし、

「チーム学校」多業種の協働 効果的な支援 についてご講演いただきます。

11月21日(日)9:00~ たくさんのご参加をお待ちしております。

